2017-01-26 講義最終日の資料ー前回の感想・コメント

1. 優生学について「ある意味で非合理なほど合理主義的理屈の徹底」というのが、よく言い表しているなと思いました。人間の社会にダーウィン的原理をあてはめ、淘汰により、良い社会[1]が築けるという発想は、自然世界に人間社会を適応させていく[2]ことだと思いました。・・・

2. ナチスの血による選別と、日本の万世一系の天皇神話のテーマに非常に関心を持ちました。“血”という非合理的な根拠のもと、ユダヤ人迫害や現在の天皇は女でも y ほいのかという問題があるというのは、言われてみると、不思議なことだと気付かされました。これまで歴史に刻まれてきた大事件も、このような非合理的な、考えてみると何の根拠にもならないもの[3]から起こっているのではないか、と考えさせられました。

3. ニューディール政策とナチスの政策を比較することで、不況をどのように乗り越えたのか、より良い方法[4]を探ることは、今後の経済状況を見ていく上でとても参考になると思ったし、論文が楽しみだ。（戦勝国と負けた国という背景の違いももちろん踏まえる必要があるが。）
　移民の受け入れ方に、イギリス、ドイツ、フランスと、それぞれ特徴があり、分かり易くまとめられていて、中間報告で私自身、移民政策の流れを再確認することができた。また、EU のように統合することで、戦争を防ぐことにつなげる（根本の理由となっていた）[5]点は、初めて知り、今後の世界の動きに、さらに注目しなければと思いました・

---

[1] その前提は、ゲルマン民族（アーリア人種）が、地球上で最高の位置にあるという似非「科学的」断定＝信念＝信仰があります。「劣等民族」を支配して当然という正当化の理屈をダーウィンの自然淘汰の原理の適用で説明しようとするわけですが、「説明」や単なる「理屈」にとどまらず、巨大な権力をもって、それを実行する、劣等民族と位置付けた人々を武力で抑え込み奴隷化する、この実際の行為が、ひどい結果を生みます。

[2] まさに、地球の歴史、植物・動物の歴史、その中での人類の誕生と発達の歴史の総体を無視した非科学的原理を、人間社会に適用し、地球上の諸民族にあてはめて、支配や奴隷化を正当化するわけですね。

[3] まさに、科学的理性的にきちんと考えて行く必要性は、ここにありますね。最近のトランプ大統領も、いかにも「もっともらしい」理由付けで、大衆の心をつかんでいます。まさに、大衆迎合主義＝ポピュリズムは、大衆の心をひきつける何かを活用し、実際とは違ったことを成し遂げることになります。

[4] 真の意味での平和的な方法、真の意味での理性的な方法、を発見すること、これが求められます。「もっともらしい」説明には、それを吟味し、「本当か？」「真実か？」と問いかけることが必要ですね。

[5] これは、ヨーロッパ諸国の EU への統合過程を貫く、決定的に重要な根拠です。19 世鯉

4. ナチズムと日本の「血」の問題はとても気になった。ナチズムにおける人種の選別は敗戦ともにに終わって（？）いながら、日本における万世一系はいまだに続いているということに、この問題の生まれる背景から大きくかかわってくるなと感じた。

5. 各国の移民の子供に対する扱いというものはかなり様々で、複雑だと思った。・・・今回の血や人種の話が、どこか海と毒薬をほうふつとさせる[6]と思った。

6. ナショナリズムを論じる視点が、報告者によってかなり違っていて面白かったです。経済政策、社会ダーウィニズムの思想、移民問題とそれぞれの関心ある分野から、ナショナリズムを分析していて、自分の知らないことがたくさんあったので、完成したレポートを読みのが楽しみです。

7. 現在の移民などの政策に対する立場も、万世一系説から考える天皇の問題も、統合を意キーワードにできるのではないかなと思った。現在、右傾化それに対する不安は長い目で見ると、「統合の在り方」の転換の必要性があり、それを模索している[7]のが現在なのかもしれないと感じる。今回の移民難民政策の新たな社会の構築へのアイデア[8]は、そうした転換に良い刺激を与えられれば良いと思った。半期ありがとうございました。

のナショナリズム、19 世紀の諸国家の対立と戦争、二つの世界戦争、これらすべてを貫いているのは、それぞれの国家が、「自国第一主義」（ナショナリズム）で、ぶつかり合った結果であり、それを克服する道として、提案され、推進されたものですね。その EU が、今、各国のナショナリズム、それぞれの国の自国第一主義で、分裂しようとしている危機状態にある、というのが現在のヨーロッパと世界の一大問題です。

[6] 時間があれば、この意味するところを確認したいですね。

[7] まさに、そうですね。ヨーロッパ諸国、それにアメリカ、それぞれの国でナショナリズムの過激化（自国第一主義）の潮流・運動・組織が強くなっています。それは、19 世紀から 20 世紀、特に戦後に進展し、さらに冷戦体制解体後に決定的に大きな流れとなった国際主義・グローバル化・グローバリズムに対抗する潮流・運動・組織ですね。
　しかし、歴史の教訓は、第一次世界大戦も第二次世界大戦も、列強がそれぞれに多かれ少なかれ自国第一主義でぶつかり合ったところにあることを示しており、そうしたナショナリズムの過激化がもたらす問題を反省して、戦後体制を築き上げたわけですね。
　その戦後体制が問い直されている、ということです。

[8] これこそ、広く日本で、また世界で模索し、発見していく必要のあることですね。そこでは、ナショナリズムとどう対峙していくか、健全なナショナリズムと排外的・暴力的ナショナリズムとどう対峙し、どう政策選択をしていくかが問われています。それは、他人任せのことではなく、一人一人が考え、しかるべき社会・国を作り出していくことに貢献することが求められていると考えまさす。その考える素材としては、歴史の教訓も、したがって歴史の研究も、非常に重要になると思います。

8. 授業全体を通してナチズムについて扱ってきたけれども、期末レポートでは、その内容を別の視点で考えたり、比較を通してみてみるという、観点を変えたものが中間発表でいくつか出てきて、とても面白いなと思った。特に英 EU 離脱問題、米のトランプ現象は、世界で主流となっていたグローバル化に対するブレーキであり、多民族・多文化社会到来に対するナショナリズムの盛り上がりによる反発の動きであり、政治においては、そういった国民の意志を巧みにすくいとった右翼・自国主義の台頭となって現れている。この政治の状況が、ナチズムに似た点を見いだせるというところから、これから社会・経済においてどのような政策をとっていくか[9]が面白いとこと、見るべき点ではないかと思う。個人的には、別の授業で、ケインズ主義⇒新自由主義という資本主義経済体制を“純粋資本主義”へと向かっているというのを聞いて、また再び、資本主義が集積・独占・寡頭という過程を経て、再び帝国主義の時代が訪れる可能性があるかどうか、知りたいな[10]と思いました。(ゼミの先生が、現在の大企業というものはグローバル企業にまで成長しているので、国ごとに考えるのは難しい[11]というのは聞きましたが)

9. 今回の中間発表の質問から、日本における「万世一系説」がどういう状況の中で作られ、それがなぜ今も続いているのかを明らかにしたいと思った。女性の天皇について、クラスの人は容認の人しかいなかったが、なぜ今なおこの皇室典範には手が付けられていないか、その背景にはどんな思想があるのか[12]知りたい。その思想とナチズムの「血」の問題の思想の類似点と異なる点を比較して、今後の日本の在り方を述べられたらと考えている。ヒトラーが君主制を否定しているという先生のお話は、とても驚いた。この矛

---

[9] 「政策」を左右するのは、国民の様々の意見・意思であり、それが代表する諸政党・諸運動体などです。「見る」立場の人々も、その巨大なせめぎあいの中で、どこかに位置を占めているわけですね。さて、各人は、どこに？

[10] これまた、大問題であり、一人一人が考え、世界の動きをじっくり考え、そして行動して行くことが求められています。

[11] 「難しい」のですが、現実に起きている世界各国での動き・潮流は、国ごとに別々に解決していこう、というナショナリズムの先鋭化ですね。孫勢力・政党が大きくなっているということですね。それに、どう対処すればいいのか、これが我々一人一人に問われています。

[12] 多くの国民が全く考えてこなかった問題が、今、天皇「退位」問題で湧き出してきたところですね。さて、この議論をどういう風に活発に行っていくか、これが問われています。しかし、安倍政権・政府は、「静かに」、あまり議論しないで、「一代限りの退位」で済ませてしまおうとしています。
　そこにあるのは、天皇制とはなにか、万世一系と何か、それと国民主権とはどう関係するのか、「国民の総意」というが、「総意」は何によって確かめられたのか（今回の場合確かめられるのか、国民投票は？）、など、次々と、民主主義の在り方や本質にかかわる重大問題が出てくるのですが、それは、見ないようにしておこう、という姿勢ですね。

盾についても知りたい。

10. ナチス・ドイツに関する発表のなかで、「1937 年にはほぼ完全雇用を達成している」とあり、それはどの範囲の人の完全雇用なのかかと思いました。ユダヤ人は含まれないと思うと、少数民族も含まれず、ゲルマン人（？）だけなのかなと思いました[13]。今回の発表は、3 人とも現在のナショナリズムやそれに関連[14]したもので、より自分の問題に近づけて考えられるなと思いました。

[13] 非常に重要な点に気付きましたね。「完全雇用」とは言うけれど、マイノリティを迫害し、追い出している現実を直視して、ナチス・ドイツの経済体制を考える必要がありますね。

[14] 過去の事実を研究する意味は、その研究する人の時代・世界・環境も大きく影響しますね。意識するとしないとにかかわらず、現在の人が、現在の立場で、問題を見直していくということになりますね。
　各人の問題意識、問題探求は、過去を取り扱っても、現在に規定されていますね。今生きている現在を抜きにした過去の理解・過去の発見はないですね。
　E・H・カー『歴史とは何か』岩波新書を、機会があれば、読んでください。